

視察報告書

平成31年2月1日

府中市議会議長 様

会 派 名 市民クラブ

日 時	平成31年1月30日（水曜日）
視 察 先	富山県砺波市 砺波市埋蔵文化財センター
視察項目	古代の遺跡を生かした展示・普及活動について
参 加 者	水田豊 土井基司 芝内則明
視察内容	備後国府跡の史跡指定を受けて、その活用のアイデアを探るため、古代の遺跡を中心とした文化財の活用で評価が高い「砺波市埋蔵文化財センターしるし」の視察に赴いた。センターは、こどもたちの通う砺波市立庄東小学校の敷地内に所在し、また、校舎の空きスペースは民具展示室となっており、文化財と学校教育との連携についてもお話を伺った。 奈良時代に実際にあった出来事を題材にした「米を都まで運ぶすごろく」を考案したり、地元ゆかりの作家の協力を得たイラストなども多用され、こどもたちが親しみを持てる展示の工夫がされていた。それ以外にも、新たに史跡指定された中世山城にちなんだ「とやま城郭パズル」など、「城ガール」をはじめとした大人も楽しめるコーナーも設けてある。 同じ敷地内にある放課後児童教室との連携もとりくんでいる。 砺波民具展示室は、校舎3階フロア全体を使用しており、砺波地方の民具約7,500点が分かりやすい解説付きで収蔵展示されている。2017年には、「砺波の生活・生産用具」として6,900点の民具が国の重要民俗文化財に指定され、特に繊細な資料は空調が完備された部屋に保管されている。児童たちとは別に出入できるよう、専用のエレベーターも設置されている。地域学習の時間には教材としての活用も行なわれている。
所 感	学校の敷地内という立地を生かし、特にこどもたちに文化財や歴史に触れあってもらおうという取り組みが印象的であった。備後国府跡も府中学園に近接しており、学校教育との連携が課題である。コミュニティスクールの活動に備後国府を積極的に取り込んでいこうという意識改革が必要である。